

# 京葉流通倉庫浦和営業所完成



京葉流通倉庫株式会社  
取締役副社長執行役員  
営業本部長

箱守 大輔

## 人材確保のモデルセンターに

1966年に埼玉県戸田市で倉庫業に取り組み始めた当社は、来年で60周年を迎えます。お客さまである荷主企業から品物をお預かりして物流業務をトータルで受託する3PL(サード・パーティー・ロジスティクス)事業者として、事業を展開しています。首都圏近郊を中心に事業所を順次開設しながら、お客さまの物流ニーズに対応してきました。

さいたま市緑区にこの度完成した「浦和営業所」は、より効率的に物流事業を運営していくことを目指して建設しました。複数の事業所の集約化を目的に計画したのですが、東北自動車道、外環自動車道、首都高速道路などにアクセスしやすいという絶好の立地環境を生かし、新規顧客の開拓に力を入れてまいります。埼玉高速鉄道の浦和美園駅から徒歩圏内にあり、雇用確保にも適していると考えています。

建設に当たっては、国土交通省の物流脱炭素化促進事業に基づく補助金を活用しました。脱炭素につながる太陽光発電と蓄電池は、BCP(事業継続計画)にも役立つでしょう。電気自動車(EV)を運用できるように充電装置も備えています。

倉庫内には空調とファンを設けて空気を整えるなど、働く環境を考慮した各種設備も取り入れています。次世代の物流を見据えて建設した浦和営業所を当社では、人材採用に向けた「モデルセンター」と位置付け、就職活動を行う学生の皆さんにも見ていただこうと思っています。

施設の設計と施工を担当いただいた関東建設工業様には、当社の要望的確に捉えて誠実に対応いただきましたことに感謝申し上げます。

# 高速道路至近の好立地な物流施設



トラックバース



倉庫



太陽光パネルを設置した屋根(写真提供: 関東建設工業)

### 施工のポイント

#### 送電線直下の工事に安全意識徹底

当社の設計・施工であり、総力工でしたが、揚重機で資機材を運搬する際に、高さ・品質・工程管理の確保に、つり荷長とワイヤつりしを取り組む意気込みで着工しました。品質管理の心構えとして当社が掲げる「次工程はお客様」を基本方針とし、引き渡し後に満足して使用いただけることを思い描いて施工しました。

特定流通業務施設として土間、スラブコンクリートに特に重点を置いて品質管理を行いました。乾燥によるひび割れを抑制するためにスランプを15センチ、石灰入りの骨材を採用するともに、生コン打設に導入したアロペラスの機材は不陸調整などに役立ちました。打設後は散水シートで湿度養生を保ちました。1階土間では、研磨仕上げや表面強化材を塗布するなどの工程で大事に仕上げました。

- 現場代理人 桑田慎一
- 関東建設工業株式会社
- 工事概要
- 工事名称: (仮称)京葉流通倉庫株式会社浦和営業所新築工事
  - 工事場所: さいたま市緑区大字大門2175-1
  - 発注者: 京葉流通倉庫株式会社
  - 設計監理: 関東建設工業株式会社一級建築士事務所
  - 施工者: 関東建設工業株式会社東京支店
  - 建物用途: 特定流通業務施設
  - 構造: S造
  - 階数: 2階
  - 敷地面積: 9,921.41㎡
  - 建築面積: 5,000.29㎡
  - 延床面積: 9,993.50㎡
  - 工期: 2023年11月20日～2025年2月28日

### 設計コンセプト

#### 商品の保管量を最大限に確保

新設する物流施設の計画地は、東北自動車道浦和ICから300m程度の距離にあります。埼玉県戸田市とさいたま市に点在している物流拠点を今回新設する物流施設に統合し輸送体制の効率化を図ることにしました。

敷地の中央部分を横断して送電線があることから、計画できる建物高さに制約がありました。そうした中で施工上の安全性を考慮し、かつ取り扱う商品の保管量を最大限に確保できるように建物高さを計画しました。

環境については、太陽光発電と蓄電池の再生可能エネルギー設備およびEV車両等を一体的に導入することで、物流脱炭素化の促進を図っています。

労働環境においても、障害者雇用に対応して車椅子利用者が使用できる多目的トイレを事務所エリア内に設けて、倉庫内で働く方が多目的トイレに行き来するための手段として利用するエレベーターも車椅子仕様とし、障害者の方も安心、安全に働ける環境整備に努めています。

関東建設工業株式会社設計部第2設計室部長 太田和之



事務所



倉庫内に設置したファン



搬送機